

2009年12月2日
東日本旅客鉄道株式会社

UIC（国際鉄道連合）気候列車の運行について

東日本旅客鉄道株式会社（以下、JR東日本）は、UIC（国際鉄道連合）と共に2009年11月5日・6日の2日間「UICアジア環境会議」を開催いたしました。

この会議で取りまとめた「Joint Message」は、デンマーク・コペンハーゲンで開催される国連気候変動枠組条約第15回締約国会議（COP15）にあわせて、UIC（国際鉄道連合）が2009年12月5日にベルギー・ブリュッセルからコペンハーゲンまで運行する特別列車「Climate Express（気候列車）」によって、COP15の会場に届けられます。

このたび、運行する気候列車の詳細が、以下のとおり決まりましたので、お知らせいたします。

1. 運行日

2009年12月5日（土）（現地時間）

2. 乗車予定者数

COP15参加者、UIC関係者、欧州鉄道関係者、気候変動や環境に関する専門家等、400名以上が乗車予定

3. 主催者

UIC（国際鉄道連合）

4. スケジュール（現地時間）

時間	内容
8:30	出発式：ブリュッセル中央駅
9:10	ブリュッセル中央駅発車 車内では、パネルディスカッションやセッションなど、多彩な催しが予定されています。
22:50	コペンハーゲン到着 歓迎式：コペンハーゲン駅

5. 気候列車について

UICは、COP15に向けて、地球環境問題を解決するために鉄道が担うべき役割を世界的にアピールすることを目的として、国連環境計画（UNEP）と世界自然保護基金（WWF）の協力を得て、“Train to Copenhagen”キャンペーンを展開しています。

UICは、このキャンペーンのキックオフイベントとして、11月5・6日に、現行の気候変動枠組を定めた「京都議定書」の誕生の地である京都において、UICアジア環境会議を開催しました。（共催：JR東日本、協力：JR西日本）

この会議には、UIC 会員である国内外の鉄道事業者及び鉄道研究機関が集まり、それぞれが取り組んでいる CO2 排出量削減や省エネに向けた施策・研究開発、鉄道の環境優位性を広く理解してもらうための広報活動などについて意見交換を行い、「Joint Message」を取りまとめました。

「Joint Message」は、ロシア鉄道がシベリア鉄道経由でハバロフスク（11月21日発）からモスクワ（12月1日着）まで運行する特別列車を經由して、今回の気候列車に乗車する UIC 本部スタッフに手渡され、その後、気候列車により COP15 の会場まで届けられ、COP15 の参加者に伝えられることになっています。また、気候列車の車内と COP15 の会場では、「Joint Message」も掲載した「Global Position Paper」（添付資料1）が配布されます。

今回の気候列車は、“Train to Copenhagen” キャンペーンの特徴として、欧州地域の UIC 会員によって共同運行されるものです。車内では、COP15 に対する期待や鉄道事業者の自助努力の必要性などをテーマに、フランス国鉄社長ペピー氏、ドイツ鉄道社長グルーベ氏、UIC 会長石田義雄（JR 東日本副会長）等によるハイレベル・パネルディスカッションが行われます。詳細については、添付資料2をご参照ください。

【参考】 UIC (Union Internationale Des Chemins De Fer)

- (1) 1922年に設立された世界最大の鉄道国際機関で、パリに本部がある。会員相互間の協力を推進し、世界レベルで鉄道を発展させていくための活動を行うことが目的である。
- (2) 2009年1月1日現在の会員数は、200（正会員82、準会員83、賛助会員35）で、主に各国の中・長距離輸送を担う国鉄又は国鉄から民営化された鉄道会社が会員となっている。
- (3) 現在、JR 東日本取締役副会長の石田義雄が UIC 会長を務めている。



協力



気候変動対策の推進：鉄道が果たす役割

グローバル・ポジションペーパー



この資料は「グローバル・ポジションペーパー」全 27 ページのうちの最初の部分を抜粋したものです。

気候変動対策の推進：鉄道が果たす役割

グローバル・ポジションペーパー

「コペンハーゲンへの列車 (Train to Copenhagen)」プロジェクトは、資源の有効利用をもとにした 21 世紀の低炭素の「グリーン経済」(環境にやさしい経済) に向けた持続可能な輸送対策のモデルとなるものである。」

「気候変動問題に関してコペンハーゲンで前向きな合意が得られれば、各国政府は低炭素社会の実現に向けた取り組みを開始し、持続可能な輸送への旅に出発することができる。」

国連環境計画 (UNEP) 事務局長
アヒム・シュタイナー

目次

エグゼクティブ・サマリー	4
輸送による世界の CO ₂ 排出量	5
輸送に伴う環境への影響の軽減	6
鉄道の改善に向けた世界の取り組み	8
国際投資	8
世界的戦略および協定	9
「コペンハーゲン」条約	10
持続可能な輸送システムにおいて鉄道が果たす役割	12
鉄道輸送のシェア拡大	13
- 都市部の輸送 車から鉄道への輸送需要の転換	14
- 高速旅客鉄道 航空機から鉄道への輸送需要の転換	14
- インターモーダル・ロジスティック・チェーン 道路から鉄道への貨物輸送の転換	16
鉄道のエネルギー効率改善	17
- 高速鉄道	17
- 回生ブレーキ	18
- ハイブリッド技術	18
- エネルギー効率の高い運転	19
- 電化	20
- 鉄道のエネルギー・パフォーマンス管理	23
- システムの境界	23
2010 年以降の鉄道	24
謝辞	25

運輸部門の排出量を削減することは、気候変動への取り組みのなかで極めて重要なステップである。鉄道はその解決策の1つになる準備ができています。



エグゼクティブ・サマリー

気候変動対策において鉄道が果たす役割

現在、社会活動に伴う温室効果ガス（GHG）排出量の削減および気候変動に伴う影響の回避に向けて国際的な取り組みが展開されている。

輸送は、社会に対して多大の利益と発展をもたらすものであるが、同時に気候変動の助長など悪影響も及ぼしている。現在の輸送構造が化石燃料に依存し、エネルギー資源や生態系に多大の負担を強いていることを考えると、輸送部門は今後の気候変動対策において重要な役割を担うことになる。

鉄道は低炭素な輸送手段であるが、CO₂排出量の少ない輸送への移行をさらに推し進めるには、継続的なエネルギー効率の改善、および道路や航空機から鉄道への輸送手段の転換の奨励が不可欠となる。

鉄道における技術面と運行面での改善、国際的基金や政府からの融資、ならびに鉄道事業者の取り組みは、現在鉄道が置かれている状況を示すとともに、2010年以降に鉄道が世界のCO₂排出量削減に貢献できる可能性を示すものである。

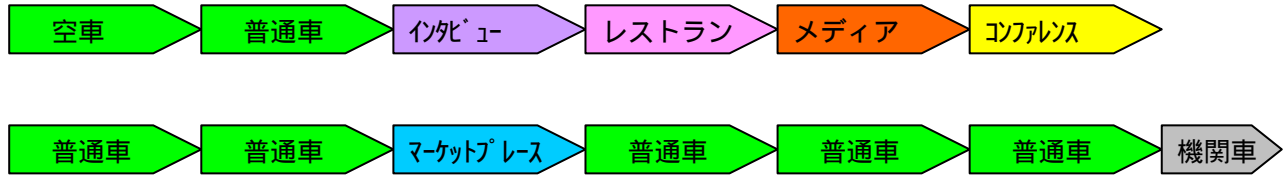


Copyright: SNCF

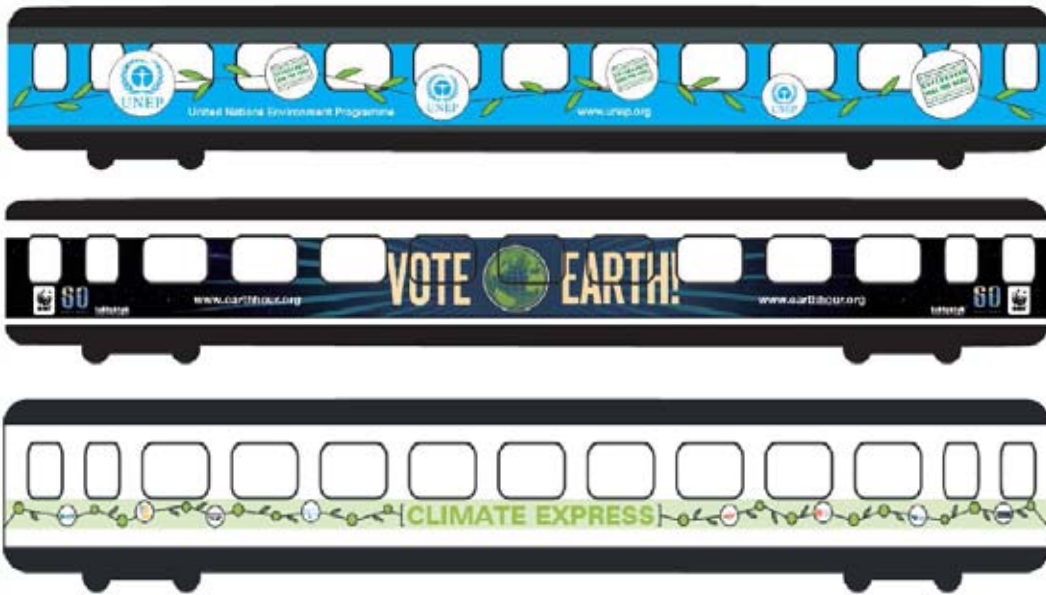
資料 2

気候列車のご紹介

気候列車は、13両編成（機関車1両、客車12両）です。



客車の外観は以下の通りです。



催し物は以下の2つの客車内で行われます。

コンファレンス



ディスカッションを開催します。

- ・パネリストは中央部（写真右窓側）に座ります。
- ・50～70名が入室できます（立席）。
- ・取材関係者は優先的に入室できます（ただし午前中のセッションのみ）。

マーケットプレース



ディスカッションやイベントを開催します。

- ・発表者は中央部（写真右窓側）に座ります。
- ・50～70名が入室できます（立席）。

車内のプログラムは以下の通りです。

コンファレンス	マーケットプレイス
<p>9:15 歓迎あいさつ (UIC ルビノー理事長)</p> <p>9:30 ディスカッション 「現状報告：いま何が起きているのか」</p> <p>10:30 ハイレベル・パネルディスカッション パ 初対：ペピー フランス国鉄社長 グルーベ ドイツ鉄道社長 カルドソ ポルトガル鉄道社長 石田義雄 UIC 会長 (JR 東日本副会長)</p> <p>11:15 ディスカッション 「EU の交通白書：交通の将来について」</p>	<p>9:30 Fight Climate Change イベント (ジャズとおしゃべり)</p> <p>10:30 ベルギー鉄道によるイベント</p>
12:40 ランチ	
<p>14:00 ディスカッション 「高速鉄道について」</p> <p>15:15 ディスカッション 「貨物輸送のモーダルシフトについて」</p> <p>17:00 ディスカッション 「ポスト 2012 における交通について」</p> <p>18:30 結び 「コペンハーゲンに向けて」</p>	<p>13:30 フォーラム 「気候変動の対策」</p> <p>16:00 プレゼンテーション ソーラーインパルス プロジェクト ピカール社長</p> <p>17:00 プレゼンテーション 「中国における気候変動への取組み」</p> <p>17:30 プレゼンテーション 「国連による REDD (森林の減少・劣化に由来する温室効果ガス排出の削減) の取組み」</p> <p>18:00 プレゼンテーション 「WWF (世界自然保護基金) の証言」</p> <p>18:30 トーク ロズ サベージ氏 (UNEP 「気候ヒーロー」) アリソン ギャネット氏 (プロスキーヤー、 Save Our Snow Foundation 設立者)</p>
19:15 ディナー	